

明治期の舞踏的遊戯

— その精神と技術の様相 —

松本千代栄・香山知子

明治期の学校教育における舞踊系の教育内容の名称については、「行進法」(明治18年)、「進行戯」(33年)、「行進遊戯」(35年)、「行進運動」(40年)、「共同的運動遊戯」(30年)、「唱歌遊戯」(33年)、「唱歌列舞」(38年)、「美的遊戯」(39年)など様々な名称がみられる。

本研究ではこれらを総称して「舞踏的遊戯」(「小学校適用遊戯軌範」明治31年(遊戯調査會)が、行進遊戯、唱歌遊戯をあわせて舞踏的遊戯と称していた。)とし、その内容を隊形変化系の行進を「行進遊戯1」、フォーク・スクウェア系の行進遊戯を「行進遊戯2」、唱歌を伴う遊戯を「唱歌遊戯」とし、分類考察した。

はじめに

先ずこの研究の背景として明治期の教育・文化の動向をみなければならない。

開化主義と欧米先進国文化の摂取をめざした明治10年代には、明治4年文部省の設置、教育行政に大きく貢献したダビット・モルレー(David Murray)の招へい、明治5年の「学制」發布をはじめとし、欧米の学校制度の形態を移して、初等、中等教育及び教員養成機関などが発足した。

また明治9年には、教師の態度や教授方法についての著「教師必読」(文部省印行)の出版(訳書)、同年東京女子師範学校に幼稚園が設置される。フレーベル(Friedrich Wilhelm August Fröbel 1782 - 1852)の教育思想により、子どもの遊びの価値、遊戯による自己活動の展開を重視する保育思想が導入され、明治20年以降ヘルバルト(Johann Friedrich Herbart 1776 - 1841)の教育学が導入されて、内的自由、完全、好意、正義、公平の5つの理念に表わされる道徳的品性が重視され、「五段階教授法」が以後の教育に段階的教授法の定型をもたらすことになった。

一方、実践的には、明治初年の幼稚園では、豊田英雄、松野クララによる幼児の唱歌遊戯の開発、明治7・8年頃にはペスタロッチ主義の理論と方法を学んだ伊沢修二が、米国の「ラブレロー」の音譜に、蝶々の歌詞を付し、唱歌遊戯を行うなど、遊戯の教育的価値にめざめて新しい胎動を導いた各業績は、今日すでに明らかにされている。

明治12年には音楽取調掛(文部省)が設けられ、また森有礼による「女学生に対する舞踏の採用」方針によって、明治19年には早くも高等師範学校女子部(現お茶の水女子大学)で、舞踏会が開かれる運

びとなり、運動会とならんで学校への欧米文化の導入の端緒となったと思われる。

次いで、教科書の検定制度(明治19年・文部省)、「小学校教則大綱」(明治24年・文部省)が出され、その第1条の「徳性ノ涵養ハ教育上最モ用フヘキナリ故ニ何レノ教科目ニ於テモ道德教育、国民教育ニ関スル事項ハ殊ニ留意シテ教授センコトヲ要ス」にみられるように、いずれの教科においても「徳性の涵養」が重視され、明治23年には、「教育ニ関スル勅語」の發布をみるに至った。以後、小学校に於ける修身教育は、勅語の徳目によってなされ、国家意識がたかまる。

明治24年からは、「小学校祝日大祝日儀式規程」により祝日儀式が行われるようになり、学校は次第に形式を整え、明治28年の「高等女学校規程」では「普通体操」や、「遊戯」を生徒にさずけることになり、明治32年には、「高等女学校令」公布、封建制下の中から人々は漸く解き放たれる方向にむかう。

明治36、7年には、小学校教科書の国定制度の成立となり、この期を境に、教育は明治初期の欧化主義から次第に国家中心の色彩を確実にしていったとみなされている。学校の遊戯も明治37年「體操遊戯取調委員会」設置(文部省)、39年調査報告がでて漸く学校の遊戯の指針が示されるようになる。(後述)

このような学校制度の整備の一方、学校教育の外部においては、明治17年にはじまった鹿鳴館での社交は、「井上外務卿が鹿鳴館を貸與せられ、…西郷参議が踏舞教師を差向られ、伊藤参議が毎會臨席して會員を奨励せられ…」等政府高官の顔を揃えて「方舞円舞各其の技術を奏」する「踏舞法」として、わが国に優美華麗な西洋舞踏をいち早く導入したことは、既に注目されているところである。

また、日清・日露戦争の後の国民意識の高揚とともに、日本の舞踊界では明治37年に坪内逍遙の「新楽劇論」が出され、「新曲浦島」の創出などワグナーの楽劇をめざしての演劇、舞踊の改革が論と実践をあわせて進められる。

このような学校及び社会の欧米文化の摂取・導入及び国家思想の確立が、体育科教育、特に「遊戯」に影響を及ぼさざるを得ないと思われる。

本研究では、これらの先行研究をふまえて遊戯の発展期と思われる明治中後期に重点をおいて、その実態を、著作の内容分析により、その精神と技術の様相を明らかにしようとするものである。

I. 行進遊戯 I

「変形行進」と名付けられたいわゆるマーチングを中心とする遊戯を収集分類した「行進遊戯 I」では、本研究の対象資料の総曲目数544の中、227曲をしめ、音楽によって「歩く」ことを中心とした遊戯の導入と展開が、明治期遊戯の1つの特色をなすとみなされる。(「舞踊学III号」6頁、表6参照)⁽⁹⁾

行進は、円形つづいて列形が最も多く、その他十字形、方形、渦巻、星形など様々な隊形をとりつつ、明治20年代の行進遊戯は多様化される。即ち、「歩く動作を基本とする隊形変換の性質」の展開である。「走る」「跳ぶ」などの動作の含まれているものは、5～6曲に限られ、各種ステップはまだ殆んどみられない。

明治30年代になるとチェーン (Chain) やターン (Turn)、ムリネ (Mourinet) など、単純な連手以外に手の動作も加わり、また「ヒール・エンド・トウ」(Heel and toe)、「ガロップ」(Gallop) など動的な動作も加わる。明治40年代に入ると、これらのステップの他、膝屈歩(Knee bending step)、打歩(Striking step)、踏歩(Stampfen) などの各種の異なった足どりのステップが導入されている。

「歩く」こと中心から、明治35、6年頃を境に増加した、これらの各種ステップは、これ以降ひきつづいて用いられ、特に「水鶏歩」(Kiebitz gang)、「搖籃歩」(Wiege gang)、「後置歩」(Nachtell gang)、「平衡歩」(Balance)などは、研究対象とした24著書中、14書に含まれている。(第8回舞踊学会 資料5頁表2参照)⁽¹⁰⁾ これらのステップは、表1によっても

表1. 歩法 (ステップ) の種類 (明治34年～45年の29書にみられる125種類)

<p>① 歩く</p> <p>通常歩 (Forward step) 再進歩 退歩 (Backward step) 退進歩 (Back and fore) 進退歩 (Fore and back)</p> <p>前置歩 重複前置歩 後置歩 (Nach gang) 重複後置歩 二重後置歩 側置歩 (Crab-side) 重複側置歩 (Double crab-side) 水鶏歩 (Kiebitz gang) = 交換歩</p>	<p>開脚歩 開脚屈足歩 駈足</p> <p>階段歩 (Stair step) 鶴鳥歩 (Storch gang)</p>	<p>旋轉摺歩 (Waltz) 摺足蘇歩</p> <p>追歩 (Follow step) 重複追歩 二重追歩 急迫追歩 後追歩 膝屈追歩 振脚追歩 踵舉追歩</p>	<p>重複(式)蘇格蘭跳躍 重複スコットランド跳躍 踵趾蘇格蘭跳(躍)歩</p>
<p>前置歩 重複前置歩 後置歩 (Nach gang) 重複後置歩 二重後置歩 側置歩 (Crab-side) 重複側置歩 (Double crab-side) 水鶏歩 (Kiebitz gang) = 交換歩</p> <p>踵趾水鶏歩 旋轉水鶏歩 水鶏足踏</p> <p>搖籃歩 (Wiege) 旋轉搖籃歩 動搖歩 振搖歩 搖籃足踏 搖籃駈足 (歩) 膝屈歩 (Knee bending step) 脛曲げ 重複膝屈歩 重複屈膝歩 半屈膝歩 舉踵屈膝歩 膝屈伸歩 後屈歩</p>	<p>② ふむ</p> <p>足踏歩 (High step) 踏歩 (Stampfen) 急迫足踏歩 急踏歩 (Double step) 繞踏歩 (反踏歩) (翻踏歩) (Labyrinth step) 路替 (歩) 三踏歩</p> <p>③ うつ</p> <p>打歩 (Striking step) 膝屈打歩</p> <p>叩歩 (Touch) 重複叩歩 (Double touch) 膝屈叩歩 重複膝屈叩歩 交叉叩歩 (Cross touch) 重複交叉叩歩 (Double cross touch) 踵趾叩歩</p> <p>踵趾歩 (Heel and toe) 踵歩 (Heel step) 踵舉げ (揃へ足)</p>	<p>⑤ とぶ</p> <p>跳歩 (Spring) 膝屈跳歩 後置跳歩 (Nach gang hop) 回轉後置跳歩 前置跳歩 水鶏跳 (躍) 歩 (Kiebitz hupfen) 平衡跳歩 (Balance hop) 旋轉跳歩 (Spring hop) 急廻跳歩 羽翼跳歩 蝶番跳歩 (Set hop) 振脚跳歩 (Short-hornpipe) 跳歩足踏 振脚跳歩 (Schenk hop) 振脛跳躍 (One leg hop) 搖籃跳躍歩 追歩跳躍 踵趾跳躍 (Clop hop)</p>	<p>上跳躍 下跳躍 (歩) (Hop) スキップ歩 跳躍摺歩 (Mazurka) 駈歩 (Gallop) ポルカ (歩) 急迫歩 (Quick polka)</p> <p>後跳搖籃歩 跳躍後置歩 駈足跳躍歩 下跳躍搖籃歩 (Wiege hupfen)</p>
<p>趾歩 (Soft step) 足尖歩</p> <p>平衡歩 (Balance) = 平均歩 重複平衡歩 (Double balance) 十字平衡歩 (Moulynet balance)</p>	<p>④ すべる</p> <p>摺足 (歩) (Skate) 重複摺歩 (Double skate) 二重摺歩 膝屈摺歩 (Minuet) = 緩舞歩</p>	<p>跳出歩 跳出水鶏歩 蘇格蘭跳 (躍) 歩 (Schottische hupfen) 單式蘇格蘭跳躍</p>	<p>(その他)</p> <p>旋轉 (歩) (Turn) 圖列旋轉歩 (Circle turn) 十字旋轉歩</p> <p>縦列旋回歩</p> <p>回轉 (Falcate turn) 歩行回轉 (轉回) (Drehen) 交叉回轉 (Creuzen) 半交叉回轉 跳躍歩行回轉 重複回 (轉) 蘇歩 轉轉回潤歩</p>

[歩法説明の例] — 「最新歩法全集」 矢島鐘二・納 尚信, 明治38年12月 より引用。
 フォワード・ステープ (Forward step) — (通常歩)
 ダブル・スケート (Double skate) — (重複摺歩)
 ナッハ・ガング・ホップ (Nach gang hop) — (後置跳歩)
 單式ショツチス・ヒュッヘン (Schottische hupfen) — (單式蘇格蘭跳歩)

明らかなように、英・独・仏の著作から採択されており、特に明治36年の「女子運動法」(クララ・ヘスリング著、坪井玄道、可児徳訳)には、その殆どどのステップがあげられており、その後の指針となったとみなされよう。表1は、その動作の種類によってステップを類別したものであるが、① 歩く、② 踏む、③ 打つ、④ すべる、⑤ 跳ぶ、⑥ その他となり単独なステップ以外に、複合形、応用形もあらわれる。「最新歩法全集」(明治38年、矢島鐘二他)、「実験団体新遊戯法・附歩法演習」(明治40年、上田信太郎)などの著には「歩法を組合したる行進」、「歩法演習」があり、この後の練習法を拡充することになるとみられる。

またステップは、「フォワード・ステップ(Forward step)―通常歩」、「バランス・ホップ(Balance hop)―平衡跳歩」、「ウィーゲ(Wiege)―搖籃歩」、「シュトリヒ・ガング(Storch gang)―鶴鳥歩」⁽¹⁾など英語、独語の原語を付記したもの、カナ書きしたもの、訳語によるものなど、種々の記述があり、明治期の外来運動文化導入の様相をナマに示している一面と認められ、興味深いものがある。

II. 行進遊戯II

行進遊戯Iにみたような、簡単な変形行進をこえて、対列や方形、また円形で互いに組みをつくり、曲目固有の音楽によって踊る形式をもつものをフォーク・スクウェア系として分類した。(表2)

ここでは明治各年代を通じて多くあげられている曲目は、カレドニアン(Caledonian)、カドリール(Quadrille)、コチロン(Cotillion)、コントラダンス(Contra dance)、ランサーズ(Lancers)等であり、方舞(Square)系のものが最も多い。明治20年~35年頃までは、これらの方舞と對舞以外はほとんどみられないが、36年以降は、スケーチング・ダンス(Skating dance)や、タンツ・ライゲン(Tanz reigen)など環舞や円舞が著しく多く表われるようになる。('舞踊学III号'6頁表2参照)⁽²⁾

これら明治後期にみられる多様化の傾向は、明治36年に日本遊戯調査会(高橋忠次郎)の「最新舞踏全集」の出版に至ったが、明治37年には、體操遊戯取調委員会(文部省)が設置され、遊戯の多様化の傾向に一定の進路を指示する結果を招いている。

事例をあげて、フォーク・スクウェア系の構造をみると、方舞系についてみると、カレドニアンでは1段~5段の段落をもって曲目が構成され、8呼間の動きの単位で、動きは方形にむきあい、常に対向している「伍」(カップル)が、ムリネ、セット(Set)、フォアエンドバック(Fore and back)といった技術を行うようになっていく。

對舞系についてみると、コントラダンスでは、向きあった2列になり、8呼間単位の動きで左右対照的にターンの動きが行われる。

円舞系についてみると、スケーチング・ダンス、ヒール・エンド・トウではカップルで円形をつくり、同じく8呼間の動きを基本単位としながら、その中

表2. フォーク・スクウェア系 行進遊戯II (曲目)の種類 (明治20年~45年の38書にみられる75曲目)

分類年代	對舞 (Contra dance)	列舞 (Set dance)	方舞 (Square dance)	環舞 (Circle dance)	円舞 (Round dance)	分類不明	対象文献数
30	對舞(コントラ・ダンス)(M20)		カドリール (M29)				3
35			ランサーズ ミリタリランサーズ ダブルランサーズ カレドニアン コチロン		ヒール・エンド・トールカ ショッツェイッシュ マツルカ バーン・ダンス ワルツ ガロップ、 ツーステップ ライン・レンター		9
40	プレーンクワドリール バリエーションカドリール	タンツ・ライゲン(3段)	独逸式ランサーズ シングルランサーズ 単複式クワドリール 佛蘭西式クワドリール 独逸式クワドリール コレージュランサーズ	タンツライゲン(5段) サーケジャンサークル スワロー ロッチェスター・ショッツェ ラウンド・アバウト グラウンド・サークル ダンシング・マーチ	マーチボルカ ミニエウット スケッチ・ダンス タンツライゲン(1,2,4段) ペビー・ボルカ ペビー・ダンス、ハイランドショッツェ コックファイア、ダブル・ショッツェ クロックボルカ、クロイツボルカ ドライ・タクト、ベルリンボルカ スプリング・ダンス、ボルカマツルカ スケーチング・ダンス	ピラミッドダンス	18
45		チェクトシ・ボス・セット レオナラ・セット ファイビー・セット プリンセス・ローヤル・セット	ナショナル・ガード・クワドリール ジグ・フィギュア マニエラ・クワドリール メソオンス・クワドリール チェリー・クワドリール	ダブル・サークル メソエット・サークル	ダイヤモンド・ボルカ セーキング・ボルカ シングル・ショッツェ ラクイット・ガロップ	スパンニッシュダンス ダブル・ライゲン ターナー・ダンス ムリネダンス フェボリット・マツルカ チーフ・ダンス ピーニーダンス リンクルト、プロバーダンス フレンド・シップ、マツルカ メーブルダンス オータム・ライゲン メソエット・ライゲン	8

注) 上欄の分類は、「舞踏行進遊戯法」(乙訓調助他、明治40年)によった。ただし、對舞には唱歌を伴うコントラダンスも含んでいる。

図1. 行進遊戯Ⅰ (「圓形循環行進」)



「固定読本 唱歌遊戯教授書」吉田信太, 原 藤藏 著
明治38年(P.151)より引用

で水鶏歩, 氷滑歩, など各ステップを用いた4呼間づつのくり返しが行われる。

環舞系についてみると、「スワロー」(Swallow)ではサークルをつくり, 8呼間の動きを単位としながら, 水鶏歩, 旋轉歩を中心として構成されており, 円舞にくらべてサークルの拡大, 縮小など円形での変化がみられる。

これらの外来舞踏的遊戯の導入の原據は記載されていないものが多いが, 白井規矩郎は, 「レスケ氏・女子遊戯圖説及び室内遊戯」「コーラウン氏・遊戯と体操」「クラウゼー氏・遊戯詳解」「アニブロース氏・遊戯大成」「クロス氏・運動の遊戯」「ケーケル氏・運動遊戯」「ワグザル氏・小供遊戯」の原據を示しており,¹⁰⁾ 高橋忠次郎は, 「ヴァリヤー・デュー氏・舞踏歴史」「グローヴ夫人他・舞踏法」「バァバード・ピー・ジェー・エム氏・舞踏書」「エー・シー・ワース氏・舞踏精粹」(以上英米の書)「レスケ氏・女子遊戯圖説及室内遊戯」「クロス氏・女子體操論」(以上独逸の書)を原據として示している。¹¹⁾ また, 坪井玄道, 可兒徳には, 「クララ・ヘスリング氏・女子運動法」(明治36年)¹²⁾ 「アー・ヘルマン氏・女子運動的遊戯」(明治38年)¹³⁾ の訳書がみられる。

Ⅲ. 唱歌遊戯

唱歌を伴って行う遊戯を「唱歌遊戯」として収集分類した。

明治20年～45年の51書にあらわれた唱歌遊戯は236曲目で, 最も多くの書にあらわれているのは, 「風

図2. 行進遊戯Ⅱ



の内縁に附し又後方舞踏姿勢とは一足の足尖を他足の踵の外縁に附して兩足は直角を爲す如き姿勢を云ふ(第五圖)即ち Franchising なり

一舞踏握手とは
左生は右手を
左臂下より右
生の背上に置
き左手を以て

「女子運動法」クララ・ヘスリング著, 坪井玄道他訳
明治36年(P.6~7)より引用

車」(明治20年以降21書にみられる。)¹⁴⁾ 「お月様」(明治35年以降20書)「桃太郎」(明治34年以降18書)で, 明治20年から30年は新作は少ないが, 33年から38年は新作が最も多く, 前述の「お月様」「桃太郎」の他, 「からす」「たこ」「夕立」「ひばり」などととなっている。¹⁵⁾ (「舞踊学Ⅲ号」7頁, 表3参照)

唱歌の題材は, 題名の選択傾向によってみると, 思想・感情(34), 物語(15), 歴史(11), 自然の風物(30), 動物(29), 植物(15), 四季(11), 遊び(30) 環境・物質(12)となり, 自然に関する題材が最も多いが, 「如何なる題目が最も幼児の興味を惹起するに適して居るか」を考慮し, 「幼児の経験界に適切たるべき事」を第一に考え, 「自然界の現象」「日常親近な鳥獸魚類」また「花葉の美はしき」植物, 「人事的關係を顕はせるもの」(例えば「物語の歌」)「日々絶えず観察経験するやうなもの」(例えば, 「汽車, 汽船, 水車, 風車, 車等」)¹⁶⁾ を題目とすることが適切と考えた児童観はすでにここに反映しているとみなされる。¹⁷⁾ (「舞踊学Ⅲ号」8頁, 表4・5を参照)

しかし, 「必勝曲」「軍隊遊び」などの戦争題材や, 「赤穂義士」「那須与一」などの歴史的題材など, 思想的, 教訓的色彩は, 題名にも明らかに表われ, 「一旦緩急アレバ…」という戦争題材は, 明治27, 8年の日清戦争の頃はあまりみられないが, 明治37, 8年の日露戦争前後には, その数は増しており, 明治期修身教育の方向が察知される。(第8回舞踊学会資料, 15頁, 図表4参照)¹⁸⁾

これらの唱歌遊戯に表われた思想性について更に精緻に考察してみよう。

ここでは唱歌遊戯の歌詞にふくまれた意味内容を分析し、特に明治23年発布の教育勅語の徳目と対照し、修身(個人)及び忠君愛国(公民)の2分野から徳目と唱歌の歌詞との関連をみた。(表3)

表3は、その歌詞に直接徳目が歌いこまれているもの(甲)、比喩的に徳目が表現されているもの(乙)、徳目のことばはみられないが、徳目的雰囲気や匂いを匂わ

せているもの(丙)に分類しているが、229教材のうち50教材は(甲)類、97教材は(乙)類、39教材は(丙)類、徳目をあらわしていない教材は、113教材となっている。徳目の殆んど全てにわたって唱歌遊戯がつくられており、年少時から「修身」と「忠君愛国」の精神の浸透をはかったとみなされ、この期の遊戯の特性を明らかに示すと認められる。

表3. 唱歌遊戯の分類(徳目別) (明治20年~45年の54書にみられる187曲目)

全徳目 (2)	忠君愛国(公民) (79)					修身(個人) (106)					分徳目 分野						
(全徳目) 教育勅語発布以後その 精神を盛り込んだもの	義勇公ニ奉ジ 一旦緩急アレバ	克ク忠ニ 克ク孝ニ	国体ノ精華	進ンテ公益ヲ広メ 世務ヲ開キ 常ニ国憲ヲ重ジ 国法ニ遵ヒ	徳器ヲ成就シ	業ヲ習ヒ	学ヲ修メ	博愛衆ニ及ボシ	恭儉己レニ持シ	朋友相信シ	夫婦相和シ	兄弟ニ友ニ	父母ニ孝ニ	教育勅語にみられる徳目			
2	37	21	21	2	27	37	9	18	0	15				曲数			
甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	丙	乙	甲	区分	
民ノ道、ヨイコトモ	櫻狩	成敷役の舞、加藤清正の舞、熊谷直實の舞、仁田四郎、吹なす喇叭、喇叭、赤すじしゃつぱ、見渡せば、朝日に匂う、黒いしゃつぱ、川中島、元寇、春の遊箱根の山、運動會、我は海の子、兵士3	大隊行軍、三城戯、参謀戯、日本男児(1)、必勝曲、陸軍、海軍、小隊、兵士(1)、兵士(2)、日本男児(2)、ますら武夫、小隊、日本の兵隊さん、軍隊、イタイ勇士の芽生え、海、日本男子	桃太郎(4)、お月さま、日本の景色、日本の國、ふじの山、仰げや仰げ、窮鼠遊、進めや、御國の為、軍人、出征兵士、我日本の臣民	愉快、わが帝國	環、機屋、演車、2、野あそび、水車、新聞紙、せんたく、燈臺、蜻蛉、お早ふ、ボチトタマ	布袋和尚	めくらら遊(2)、霞か雲か	恭儉博愛、處世の歌	めくらら遊(1)、トモトチ、盲鬼(2)、めくらら遊(1)(歌舞)、秋野戯、春野ノ打毬、春効打球	友だち(1)、トモグチ、友だち(2)、友達	門、朋友、よき友、一羽の鳥、笛と太鼓、鳩、球投	盲鬼(1)(トモトチ)、盲鬼(2)、めくらら遊(1)(歌舞)、秋野戯、春野ノ打毬、春効打球	家庭、ちちはは	池の鯉(1)、鴨、父母の土産、雀(1)、秋夕暮、雁(1)、ちらちらほろほろ、母の心、雁(2)、からす	桜、雁(3)、鯉	教材(曲目題名)

注 1) 唱歌遊戯 299 曲目のうち、徳目関係の 187 曲目について分類した。
 2) (甲) …… 直接徳目が表現されているもの。
 (乙) …… 比喩的に徳目が表現されているもの。
 (丙) …… 徳目のことばはみられないが、徳目的雰囲気や匂いを匂わしているもの。
 3) *印は、尋常 1, 2 年を対象とした教材。

表4. 唱歌遊戯の歌詞 (徳目分類)

教育勅語発布以後その精神を盛り込んだもの…	学ヲ修メ 業ヲ習ヒ…	克ク忠ニ…	徳目
<p>(甲)</p> <p>民の道</p> <p>〈高等全女対象〉</p> <p>山下房吉ノ 作歌</p> <p>村上一郎 作曲</p>	<p>(甲)</p> <p>進め (1)</p> <p>〈尋常二二年対象〉</p>	<p>忠孝</p> <p>〈雀と鳥〉</p> <p>〈尋常一年対象〉</p> <p>(乙)</p>	<p>題目</p>
<p>一、ヒイツルクニノ クニタミハ チウトカウトニ ミヲササゲ ミコトノママニ ススムベシ コレゾワレラノ ツトメナル</p> <p>二、富士の高根と琵琶の海 比ぶものなき父の思 *みことのままに 進むべし 是れぞ我等の務めなる 三、三つ葉四つ葉に分るとも 根本は一つ兄弟 (*くり返し、以下同様)</p> <p>四、世のうき事もたのしみも 互いにわかつ友の道</p> <p>五、いつも非れをいまして たつなゆるすな此駒も</p> <p>六、むだに過すな月と日を 智慧をひらき徳をつみ</p> <p>七、何につけても世の益と 人の為とを思ひやり</p> <p>八、安く治まる國の内 をきての道の賜ぞ</p> <p>九、心一つに君の為 磨けや義男の魂を</p> <p>十、遠き祖先の遺風を追ひ 績をあげよ後の世に</p> <p>(「実験団体新遊戯法」吉井 栄、明治36年)</p>	<p>一、ススメススメ ヒトビトコドモ ハゲメハゲメ タユマズハゲメ マナビノミチノ タノシキカタヘ ススメススメ タユマズススメ ヨムトキモ カクトキモ オコトラズヨクハゲメ ハゲメハゲメ タユマズハゲメ</p> <p>二、ススメススメ ヒトビトコドモ マナベマナベ タユマズマナベ ヲシヘノミチノ タノシキカタヘ ススメススメ タユマズススメ フミヨムモ モジカクモ オコトラズヨクマナベ マナベマナベ タユマズマナベ</p> <p>(「音楽之枝折」大村芳樹、明治20年)</p>	<p>雀々すずめは 何といふてなくか 天子様に忠々忠 皇后様に忠々忠 鳥々からすは 何といふてなくか おとこ様に孝々々 おかあ様に孝々々</p> <p>(「実験女子遊戯教授書」白井規矩郎、明治33年)</p>	<p>歌詞</p>

一旦緩急アレバ義勇公ニ奉ジ…	国体ノ精華…	父母ニ孝ニ 兄弟ニ友ニ	徳目
<p>(乙)</p> <p>朝日に匂う</p> <p>〈尋常二三年 以上対象〉</p> <p>中村秋香 作歌</p> <p>小山作之助 作曲</p>	<p>(丙)</p> <p>日本の國</p> <p>(國定小学読本 巻六 第一課)</p> <p>〈尋常三年対象〉</p>	<p>(甲)</p> <p>ちははは</p> <p>吉田信太 作曲</p>	<p>題目</p>
<p>一、朝日に匂ふ山櫻 日本男子の勝れたる 手並を見するわ 今日なるぞ 行けや人々 勇ましく</p> <p>二、太鼓のどろき喇叭の響 凱歌に天地を動かして 歸るわがてもあすなるぞ 行けや人々 勇ましく</p> <p>三、わが日の本の日の御旗 輝く光を世の中に あまねく示すは この時ぞ ゆけや人々 いさましく</p> <p>(「遊戯の実際」遊戯研究会、明治35年)</p>	<p>一、日本の國は松の國 見上げる峯の一つ松 はまべにつまぐ松原の 枝ぶりすべておもしろや わけて名におふ松島の 大和小島その中を 通ふ白ほの美しや</p> <p>二、日本の國は花の國 うめもさくらふじあやめ 白つゆむすぶ秋の野の ちぐさの花もおもしろや わけてさくら吉野山 一目千本咲きみちて かすみか雲か美しや</p> <p>(「改正國定小学読本唱歌適用遊戯」 東京児童体育研究会、明治43年)</p>	<p>三、ワレラハ チチハハ アレバコソ タベモノキモ フソクナク マイニチ タノシクシテクラス オモヘバタカイ オヤノオン</p> <p>四、モシモ チチハハ ナイナラバ オヤニハナレタ スズメノコ ドンナニツラカロ カナシカロ オモヘバフカイ オヤノオン</p> <p>(「最新遊戯教授書(上)」原 藤藏、明治41年)</p>	<p>歌詞</p>

次いで表4では、歌詞内容を示しているが、例えば「忠孝」では、「天子様に忠々忠、皇后様に忠々忠…」と「克く忠ニ」をうたいこんでおり、「進め(1)」では、「ハゲメハゲメ タユmazハゲメ マナビノミチノタノシキカタへ…」と「学ヲ修メ業ヲ習ヒ」を奨め、「ちちはは」では「…オモヘバタカイオヤノオン…」と「父母ニ孝ニ」を教えており、徳目が直接唱歌におりこまれている。

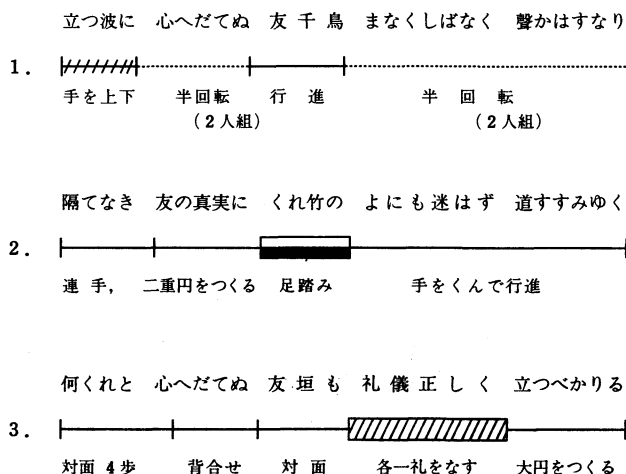
更に、これらの個々の徳目を1曲中に盛り込んだもの以外に、教育勅語発布後、教育勅語にそって全徳目を含む唱歌遊戯も出現していることに注目しなければならない。即ち、「民ノ道」「ヨイコドモ」である。「民ノ道」では、1番の歌詞「ヒイヅルクニノクニタミハ チウトカウトニ ミヲササゲ…」にはじまり、7番「何につけても世の益と人の為を思ひやり…」、8番「安く治まる國の内、をきての道を賜ぞ…」と、教育勅語の徳目が10番までの歌詞に網羅されている。

これらの徳目の網羅と唱歌遊戯の対象年齢をあわせて考えると、教材は、尋常1、2年男女対象がほとんどで、中には3、4年男子にも課そうとしている教材がみられ、(例えば、「愉快」「わが帝国」「軍人」等)これらの点からは、前述のように年少時からの道徳教育のねらいが一層明らかに認められる。

観点をかえて、唱歌遊戯を、動作の形態から考察しよう。

徳目内容に関係した遊戯についてみると、以下のよう5つに大別される。①行進とその場、②模倣だけ、③行進と模倣動作、④行進と体操的動作、⑤行進とその場と模倣・体操的動作、を含んでいるものである。(図3)

図3. 「朋友」(「実験詳説 遊戯唱歌大成」白井規矩郎, 明治33年, P.34~37)



模倣動作では、例えば「がん、鳥、キジ、つばめ、雀、カラス」などの鳥類では、「羽翼運動」といわれる手の上下運動や、その他、犬、ありなどの生態の描写的な動作がとりいれられている。

一方、感情的な表現では、両手を上げて跳躍する、体を反らす、手を胸において手を開く…といった日常的な情緒反応からくる動作がとりあげられている。

また、礼法のあらわれとみられるおじぎは、例えば「忠孝」の「天子様に忠々忠」で敬礼する、「ちちはは」の「オモヘバタカイオヤノオン」で停止して礼をするなど敬意を表する「儀礼」の形式がそのまま一表現形態として用いられている。

動作形態の5つの分類は、模倣動作だけを行うものは1種だけ(②)で、他の4種は行進と組みあわされている。即ち、「唱歌をうたいながらマーチングを行う」というように、導入した「外来舞踊の行進系の形式」をそのままとりいれて唱歌と融合させた唱歌遊戯の形態が多くみられることに気付くのである。

また、明治中期には、言文一致運動がおこり、以来唱歌も児童に理解しやすい歌詞に変わる傾向をみせているが、歌詞にあわせてあて振りの模倣動作の動作形態の増加がこの時期と一致しているかどうかは今後の検討にまたねばならない。

結 び

明治以来100年余を経過した今日、教育の中の舞踊の形態は、めざましく変貌している。

21世紀の新しい時代の視点がかとめられるとき、明治中後期のめざましい欧米文化の摂取とその同化・新生をみることは、今日の教育の課題解決にも1つの示唆をもたらすものと思われる。

朋		友	
は 調 四 拍 子			
3 3 5 5 6 . 0 1̇ - 2̇ 2̇ 6 6 5 5	タツナミ	モ	ココロヘダテヌ
へだてなき	とも	まことに	
ナニクレト	ココロ	ヘダテヌ	
3 3 5 5 6 . 0 1̇ - 2̇ 2̇ 6 6 5 5	トモチドリ	マナク	シバナク
くれたけの	よにも	まよはず	
トモガキ	モ	スデメ	タダシク
3 - 5 - 6 . 7 6 5 3 - 2 1 2 - 0	コ	エ	カーハスナー
み	ち	す	みゆる
タ	ツ	ペ	カリケール

これらの意義を再認しつつ、
「明治中後期の舞踏的遊戯」の特性をまとめてみると、

1. 行進遊戯，唱歌遊戯を通して「身体発達」特に「下肢の発達」をめざし，生活や服装の変遷ともかかわって，「脚部を自由に運動せしめ，其の發育」²⁰を重視し，
2. 行進遊戯，唱歌遊戯を通して，唱歌の雅楽調から洋楽調への変化に応じ，拍子的な動きではあったが，「律的動作」を重視し，
3. 行進遊戯，唱歌遊戯を通して，「規則に従ふの習慣又は朋友と接するの交情を養成」²¹する「集団動作」の価値を重視し，
4. 行進遊戯，唱歌遊戯を通して，「壓迫閉塞せられたる心情を解放し，身心慰養上の効を奏する」²²「優美高雅の風采を作為する」²³舞踏的遊戯として「動作と心情」との深い連関に着目した。

と認められる。

今日の個性に基く自己表現とは距りながら，舞踏的遊戯として，舞踊と舞踊教育の本質に接近しようとした真意を認めるものである。

また，徳目と唱歌遊戯の形態を対照するとき，歌詞内容によって動作の変るものは少なく，一般に遊戯としての律的動作の形態を優位においている点に特色をもつことをみのがしてはならない。

この遊戯形態の定型性は，「遊戯形態」即ち踊ることと，「内容」即ち精神性との関連に自ら考え至らせる。明治期教育は，「忠君愛国」「修身」の観念を觀念として教えるのではなく，心情とかけこんで国民教育を企図したとみられるが，しかし，この一見教化的な歌詞の唱歌遊戯は，律的にはこぼれる「歩」・「跳」の中に解放された表現行動——生命の発露として，「動的な楽しみ」をはじめて人々に享受させ共有させたものとして意義深い。

この本質的価値が遊戯の発展を可能にしたとみる時，明治期舞踏的遊戯の価値は今日的意義に通じ，その史実は舞踊の本質を語るものともみなされよう。

- 註 1. 文部省編「幼稚園教育百年史」ひかりのくに，1979，46～49頁
2. 藤原喜代蔵「教育思想学説人物史」東亜政経社，1943，282頁
3. 当時の保育内容は殆んど翻訳にヒントを得てつくり出されたもので，唱歌遊戯も保母が外国の歌詞を翻訳又制作して作成していた。（前掲書1，60頁）
明治10年頃の「家鳩」の図がお茶の水女子大学附属幼稚園，大阪市立愛珠幼稚園に所蔵されている。
4. 湯本武比古「楽石自傳教界周遊前記」1912，24頁
5. 山住正己「唱歌教育成立過程の研究」東京大学出版会，1967，46頁
6. 玉城肇「明治教育史」季節社，1949，137頁
7. 文部省「学制百年史 資料編」ぎょうせい，1972，98頁
8. 「女学雑誌」第1号『雑報』明治18年，6頁
9. 松本千代栄・香山知子「外来舞踊の導入と舞踏的遊戯の生成過程」舞踊学Ⅲ号，1980，6頁
10. 松本千代栄・名須川知子「外来舞踊の導入と舞踏的遊戯の生成過程」第8回舞踊学会資料，1979，5頁
11. 矢島鐘二他「最新歩法全集」東京英文館，明治38年，10，12頁
12. 前掲書（9）6頁
13. 白井規矩郎「実験詳説遊戯唱歌大成」同文館，明治33年，緒言
14. 高橋忠次郎「理論實際小学遊戯教科書」榊原文盛堂，明治39年，25～27頁
15. この書は，ドイツでおこなわれている中から，我国の女子に適し，且つ参考となるべき部分である，徒手體操，歩法演習，及び整列運動の部を抄訳したものである。（訳者）
16. 前掲書（9）7頁
17. 矢島鐘二他「唱歌遊戯の友」宝文舎，明治38年，4～6頁
18. 前掲書（9）8頁
19. 前掲書（10）15頁
20. 前掲書（14）168頁
21. 前掲書（13）9頁
22. 前掲書（14）98～99頁
23. 武田文三郎「學校遊戯の理論及實際」隆文館，明治41年，24頁

※ 尚，研究対象著書は，表5に示した。（発行所，対象学年は省略した。）

表5. 研究対象著書 (舞踏的遊戯に関する著書一覽表) (明治18年~45年の97書)

発行年月	著書名	著者名	発行年月	著書名	著者名
明治18年4月	戸外遊戯法一名戸外運動法	坪井玄道	明治38年1月	最新行進法	矢島鍾二
明治19年8月	小学戸外遊戯法	広瀬辰一郎	明治38年3月	ダンシング	坪井玄道
明治20年6月	音楽之枝折	大村芳樹	明治38年6月	ダンスの楽	中川済
明治20年10月	戸外遊戯法	大丹室	明治38年7月	国定読本 唱歌遊戯教授書	吉原信太
明治21年5月	小学遊戯法 (1,2,3巻)	花岡朋太郎	明治38年10月	唱歌遊戯の友	矢島鍾二
明治22年8月	体育美貌書	近藤義夫	明治38年11月	行進運動法	ア・ヘルマン
明治25年2月	小学遊戯書	近藤義夫	明治38年12月	模範(運動會法)	坪井玄道, 可兒徳次
明治27年1月	学校児童戸外遊戯法	増田正章	明治38年12月	最新歩法全集(舞踏の楽)	矢島鍾二, 信高
明治27年7月	遊戯法	白志目	明治39年2月	最新遊戯法	日本体育會
明治27年8月	遊戯の枝折	大村芳樹	明治39年3月	国定小学読本 唱歌適用遊戯法(上・下)	東京児童會
明治28年2月	小年教育遊戯	嚶々亭主人	明治39年4月	遊戯の楽	治田一作
明治29年	改正増補 音楽適用遊戯之枝折	大村芳樹	明治39年5月	女子遊戯書	体操遊戯講習會
明治30年7月	新編小学遊戯全集	白井規矩郎	明治39年7月	理論實際 小学遊戯教科書	高橋忠次郎
明治31年7月	小学適用遊戯軌範	遊戯調査會	明治39年7月	小学適用遊戯全書	三井秀雄
明治32年2月	実践遊戯全書	体育研究會	明治39年7月	体育之理論及實際	井川可兒, 高島, 瀨井
明治32年6月	実験新遊戯	佐藤福雄	明治40年1月	新定小学遊戯体操の實際	相馬小太郎他
明治32年6月	新式遊戯法	高服部徳造	明治40年3月	舞踏行進遊戯法	乙石調綱, 藤五郎
明治33年3月	実践女子遊戯教授書	白井規矩郎	明治40年4月	実験団体新遊戯 附, 歩法演習	上田信太郎
明治33年4月	実験詳説 遊戯唱歌大成	白井規矩郎	明治40年5月	舞踏曲譜と遊戯法	横吉古高, 田部橋, 捨恒三又
明治33年9月	実験小学遊戯法	大庭竹治良	明治40年5月	小学校遊戯法	白井規矩郎
明治33年11月	女子遊戯の楽	下田歌子	明治40年6月	新式欧米美的遊戯	可兒徳次郎, 坪井玄道
明治34年1月	舞踏案内	鈴木米次郎	明治40年6月	行進遊戯提要	可兒徳次郎, 坪井玄道
明治34年3月	新編遊戯教授書	高山源助	明治40年6月	舞踏法初歩	可兒徳次郎, 坪井玄道
明治34年6月	教育的遊戯の原理及實際	富永岩太郎	明治40年7月	行進遊戯法	松嶋茂
明治34年7月	訂正増補 女子体操遊戯法(音楽応用)	高橋依田	明治41年1月	学校遊戯の理論及實際	武田文三郎
明治34年7月	唱歌適用児童遊戯法	林かね	明治41年5月	最新遊戯教授書(上巻)	原藤蔵
明治34年7月	小学遊戯全集	近藤直次郎	明治41年8月	センチユリー式歩調と行進遊戯	白井規矩郎
明治34年7月	新令適用小学遊戯	佐藤暹	明治41年9月	六箇年小学新遊戯	早坂留平治
明治34年11月	実験新体遊戯	川井若磨	明治41年10月	実験行進法教授書	真島陸美
明治35年2月	増補5版 唱歌適用実験遊戯	芦田恵之助	明治41年12月	遊戯の友	千遊集, 川島, 師範, 永三, 太五, 藤五郎, 橋本, 石橋, 沼
明治35年2月	唱歌適用新編表情遊戯	高井徳造	明治42年1月	行進遊戯法提要	児童体育研究會
明治35年2月	遊戯の實際	遊戯研究會	明治42年7月	教科適用 小学校新遊戯書	伊藤啓八
明治35年3月	方舞	吉田信太	明治42年8月	実験動作遊戯	白井規矩郎
明治35年4月	実験国民新遊戯	江立山	明治43年4月	最新舞踏書提要	藤井範治
明治35年7月	幼稚園唱歌遊戯法	橋根栄村	明治43年6月	最新教育的體操と遊戯	藤井範治
明治35年7月	新按実験遊戯(上)	中岩	明治43年11月	国定読本準拠 唱歌遊戯	東京児童會
明治35年10月	男女遊戯(附, 唱歌)	中岩	明治43年11月	改正国定小学読本 唱歌適用遊戯	中野篤一郎他
明治35年10月	小学遊戯法(甲, 乙)	遊戯法研究會	明治43年12月	小学読本 唱歌適用遊戯法	中野篤一郎他
明治35年12月	新案遊戯法(全5冊)	遊戯法研究會	明治44年1月	国定読本 最新動作遊戯法	小仲石加, 坪井玄道
明治36年2月	実験団体新遊戯法	吉井栄	明治44年4月	舞踏新集	中野篤一郎他
明治36年5月	新撰遊戯法	日本体育會	明治44年5月	小学校女子行進運動	中野篤一郎他
明治36年6月	女子運動法	クラブスリング	明治44年8月	新定文部省発行 尋常小学唱歌適用遊戯(1学年用)	中野篤一郎他
明治36年7月	最新舞踏全集	日本遊戯調査會	明治44年9月	文部省編纂 唱歌適用最新動作遊戯書	中野篤一郎他
明治36年7月	遊戯之方法	田代辰五郎	明治45年1月	新定文部省発行 尋常小学唱歌適用遊戯(2学年)	中野篤一郎他
明治36年8月	児童表情遊戯	中川済	明治45年1月	新遊戯法	中野篤一郎他
明治36年9月	唱歌遊戯書	生島辰作	明治45年4月	国定読本 唱歌を基礎としたる法	中野篤一郎他
明治37年2月	新編小学遊戯書	太田繁太郎	明治45年4月	文部省編纂 唱歌適用動作遊技	中野篤一郎他
明治37年12月	新按実験遊戯(下)	乙石橋	明治45年7月	尋常小学唱歌適用遊戯(3学年)	中野篤一郎他